

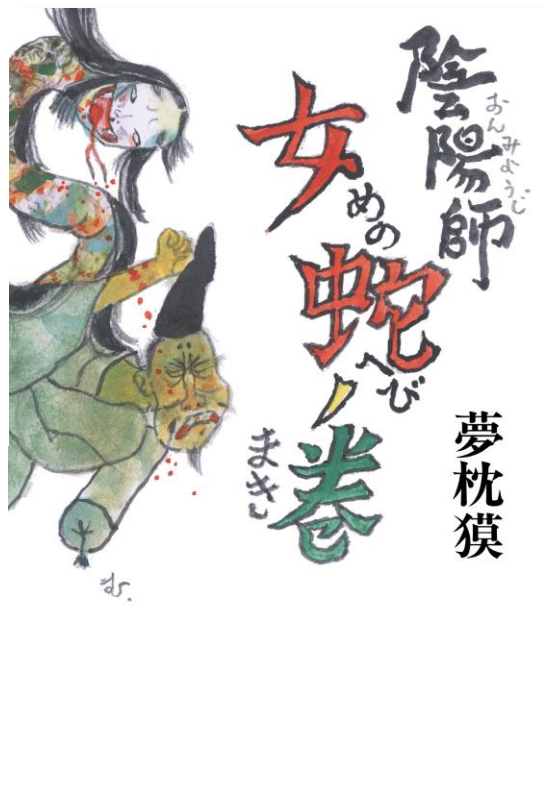
文春  
の  
2月28日発売  
1450円+税

藝秋  
の  
新刊  
発売  
1450円+税

# 陰陽師 女蛇ノ巻

め の へ び の ま き

## 夢枕獏 著



陰陽師・安倍晴明と  
心優しき笛の名手・  
源博雅が活躍する  
累計600万部突破の  
人気シリーズ第16弾

ゆめまくら・ばく

著者略歴:1951年神奈川県生まれ。77年「奇想天外」に「カエルの死」を発表し作家デビュー。『餓狼伝』『魔獣狩り』『キマイラ』『陰陽師』シリーズで人気を博す。89年『上弦の月を喰べる獅子』で第10回日本SF大賞、98年『神々の山嶺』で第11回柴田錬三郎賞受賞。2011年から12年にかけて『大江戸釣客伝』で第39回泉鏡花文学賞、第5回舟橋聖一文学賞、第46回吉川英治文学賞受賞。2017年、第65回菊池寛賞受賞、2018年に紫綬褒章受章。

「そういうおまえが愛しうて、こういう眼になってしまうのだ。博雅よ」

【目次】  
「傀儡子神(くづつがみ)」桜を愛で酒を呑む晴明と博雅。そこへ道満が木偶を持ってやって来る。  
「竹取りの翁(おきな)」老母が山にでかけたまま消えて五年。妻が目が痛いと訴え……。  
「さしむかいの女」兄弟子に頼まれた晴明は三日間目を覚まさない男のもとへ向かう。  
「狗(いぬ)」女の童をつけ狙う白い狗。道満は童と狗を離すように忠告したのだが……。  
「土狼」姿を見せずに人の足を喰うものの正体を、晴明が突き止めると……。  
「墓穴(つかあな)」雨宿りするために入った墓穴で、男は鬼と出会った。  
「にぎにぎ少納言」毎夜あらわれては少納言の右手ばかり噛む女の正体とは。  
「相人(そうじん)」僧の登照は、夜道をゆく博雅の笛の音を聴いて死相を感じた。  
「塔」比叡山の僧・玄珍は、奇妙な夢を見た。  
「露子姫」薄紫色の衣を来た女性が、露子姫の夢に出て歌を詠むのだが……。  
「月を飲む仏」巨大な薬師如来を目撃した晩、博雅の夢に美しい女が現れる。  
「蟬丸」逢坂山で独り暮らす蟬丸は自然の中で琵琶を弾く。

著者インタビュー、書評などご検討ください！

[お問い合わせ先]株式会社文藝春秋

プロモーション部 電話:03-3288-6142 mail: [pr@bunshun.co.jp](mailto:pr@bunshun.co.jp)